

なかぐしくどうん  
**第 1 回 中城御殿跡地整備検討委員会**  
**(令和4年度)**

**【資料 3】松崎馬場設計にあたっての前提条件整理**

1. 整理検討項目（松崎馬場）
2. 松崎馬場の歴史的 position 付けと根拠資料等について
3. 今回検討事項
  - ① 松崎馬場整備の考え方・整備方針
  - ② 松崎馬場園路のルート設定の考え方

# 1. 整理検討項目（松崎馬場）

- 松崎馬場の設計にあたって整理検討する主な方針等は次のとおりである。

| No. | 検討する方針等                | 検討のタイミング                 | 頁数   |
|-----|------------------------|--------------------------|------|
| (1) | 松崎馬場整備の考え方・整備方針        | H22～23の内容を踏まえて第1回委員会（今回） | p. 8 |
| (2) | 松崎馬場園路のルート設定の考え方       | 第1回委員会（今回）               | p.11 |
| (3) | 松崎馬場園路のルート・舗装等         | 検討部会①～②                  | —    |
| (4) | 松崎馬場の植栽の考え方            | 検討部会②                    | —    |
| (5) | 付帯施設（照明・サイン・管理施設等）について | 検討部会③                    | —    |

- 本日の委員会で議論し、方向性を決定したい項目は次の2項目である。

## ① 松崎馬場整備の考え方・整備方針

- 平成22～23年度にかけて松崎馬場整備の基本的考え方や整備方針が位置付けられている。
- これら及び首里城火災後の条件等を踏まえて、改めて松崎馬場整備の考え方・整備方針について。

## ② 松崎馬場園路のルート設定の考え方

- ルート検討にあたって、現在、顕在化している課題等を踏まえたルート設定の考え方について。

## 2. 松崎馬場の歴史的な位置付けと根拠資料等について

### (1) 歴史的な位置付け①

- 松崎馬場は、龍潭東岸に面した広場で、国学や首里聖廟の西側に位置する。首里城久慶門を起点に沖縄本島北部に至る宿道の一部でもあった。冊封使節を歓待した「重陽の宴」では、龍潭での爬龍船競争を観覧する棧敷が設けられた。松を主体とした樹木を植えており、美観を意識した場所であった。
- 沖縄戦までの松崎馬場の歴史的沿革等は、以下のとおりである。
  - 松崎馬場の成立時期は不明だが、龍潭の東岸に宿道が通っていたことから、宿道が設置されていた17世紀にはある程度の整備が行われていたと想定される。また、「**首里古地図**」(18世紀初頭)には、宿道や松林、勝連按司の屋敷が描かれている。
  - 松崎馬場跡が本格的に整備される契機となったのは、1801年の琉球の最高学府である**国学**が移設されたことによる。国学の設置に伴い、松崎前から国学に至るまでの道に、士族や庶民により嘉木が植栽され、白砂を敷いたことが確認される。  
(『球陽』尚温王7年条)
  - 『**冠船之時御座構之図**』の「**重陽宴松崎之図**」(1866年)には、この時期における松崎馬場の様子が詳細に描かれている。絵図には、龍潭東側の縁に松を主体とした樹木が整然と並んでいる様子が描かれており、美観を意識した植栽がなされていた。また、冊封使を歓待するために龍潭で爬龍舟競漕を行った様子や、松崎馬場に冊封使および一行が観覧するための4間×5間の観覧席が設けられたことが読み取ることができる。また、他に2間×3間の布屋が2棟、茶屋、茶湯所といった施設も見ることができる。
  - 1886(明治19)年1月に**沖縄県師範学校**が国学跡に新築移転すると、隣接する松崎馬場は木造校舎建設によりその範囲が縮小されるなど、大きく改変される。1945(昭和20)年の沖縄戦で沖縄県師範学校の校舎は徹底的に破壊されたことにより、学校も廃止されるに至った。

## 2. 松崎馬場の歴史的な位置付けと根拠資料等について

### (1) 歴史的な位置付け②

- 戦後直後の昭和20（1945）年には小学校敷地として利用され、その5年後の昭和25（1950）年に米国民政府によって琉球大学が首里城跡に設立され、国学跡ならびに松崎馬場跡にも大学男子寮が設置された。男子寮はRCによる鉄筋コンクリート造りであり、それらを建設するために周辺は広く造成が行われた。よって戦前までの様相とは更に一変することとなった。
- 発掘調査により、沖縄県師範学校の礎石や建物の周囲をめぐる溝の下層に、国学・孔子廟に関連する遺構や、松崎馬場、宿道と思われる舗装面の存在が検出されている。
- 松崎馬場における競馬については、『那覇市史 資料編 第2巻中の7（那覇の民俗）』に次の記述がある。

#### 四 競馬（ンマスーブ）

競馬のことを馬勝負（ンマスーブ）とも馬揃い（ンマズリー）ともいう。

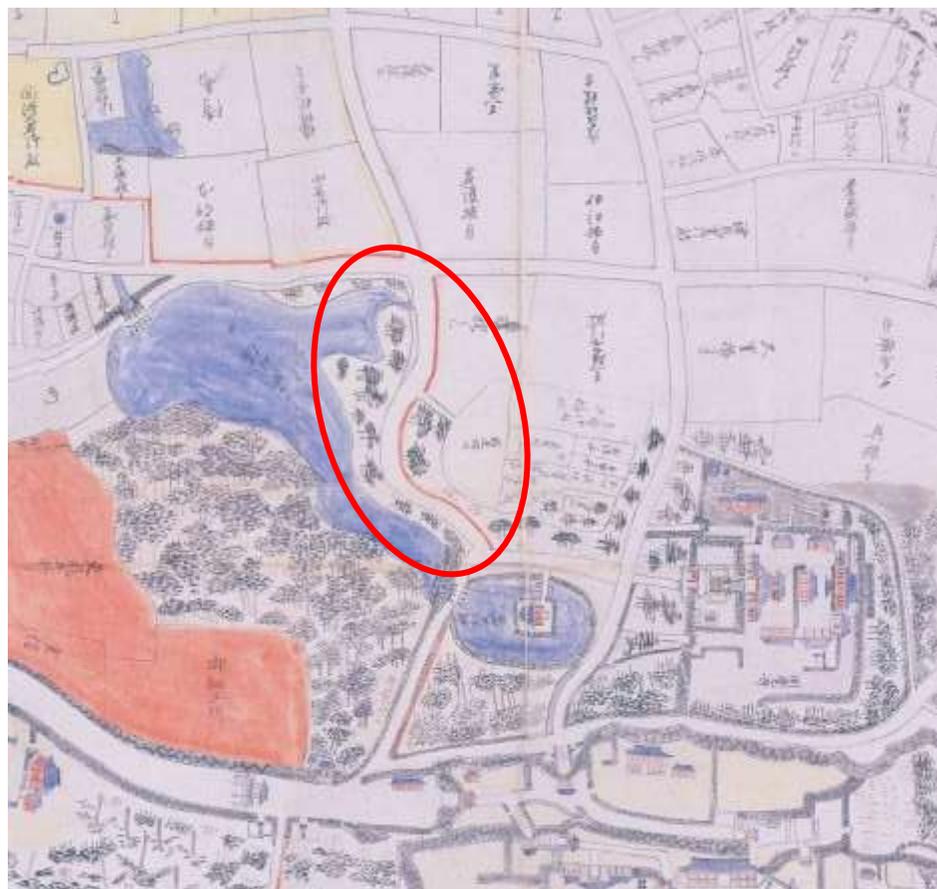
首里には王府御用達の馬場が崎山村に崎山馬場（サチヤマンマウィー）、**龍潭池の側に松崎馬場（マチザキ）があった**が、一般には規模の大きい識名村の識名真地、平良村の平良真地が利用された。（後略）

**1 鳥居出し** 二十日正月には「トゥリダシ」とも「物参（ウムヌメー）」といわれた競馬が、綾門で行われた。泊の潟原（前島町の塩田）に勢ぞろいした馬を首里までとばし、中山門と守礼門の間の綾門大路で競争させた。この時には馬をとばさせた（ムルガキという）ので、綾門は激しい馬の勝負でやかましく、馬から落ちる者、口から血をふき出しながら走る馬など強烈なものであったという。中山門には青竹を横たえその上を跳びこして勝負させた。守礼門を過ぎると龍淵橋を渡り、松崎馬場を通り、安谷川坂から儀保小坂を越え平良真地で慰労の競馬を催した。明治年間まであり、一旦緩急の時の訓練であったという。

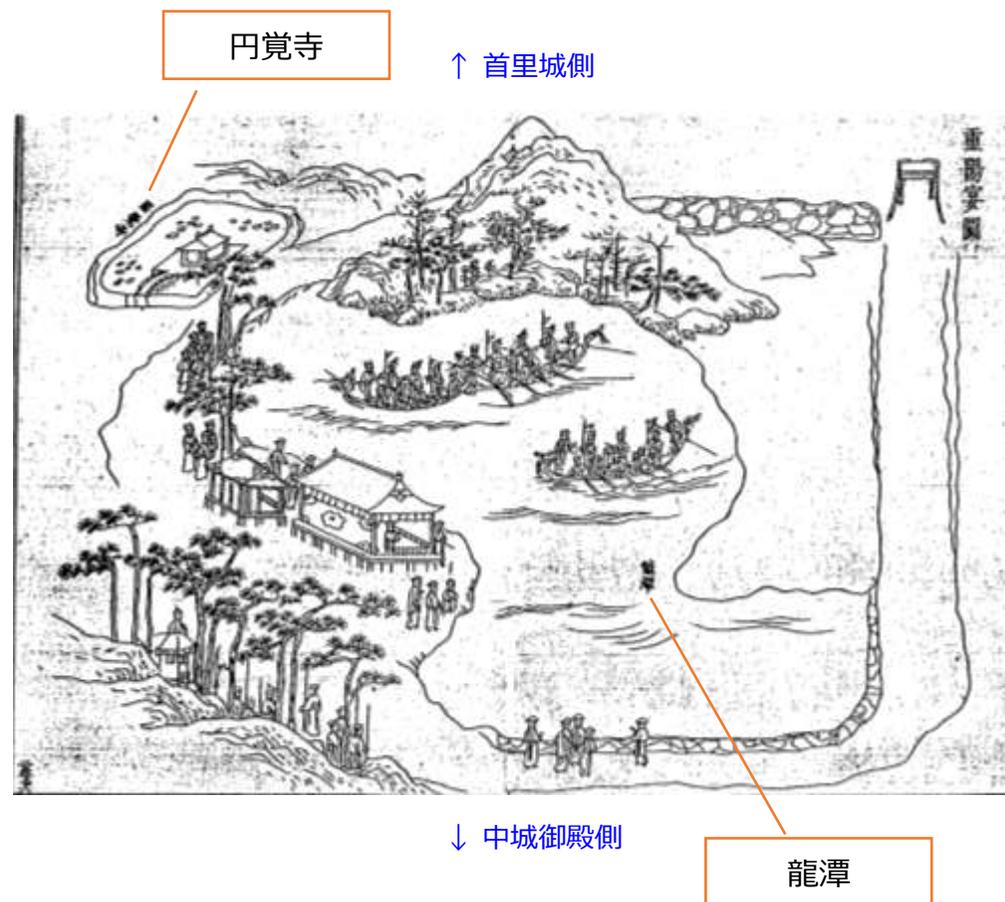
（『那覇市史 資料編 第2巻中の7（那覇の民俗）』1979年/那覇市）※「竜」は「龍」に改めた。

## 2.松崎馬場の歴史的な位置付けと根拠資料等について

### (2) 根拠資料①



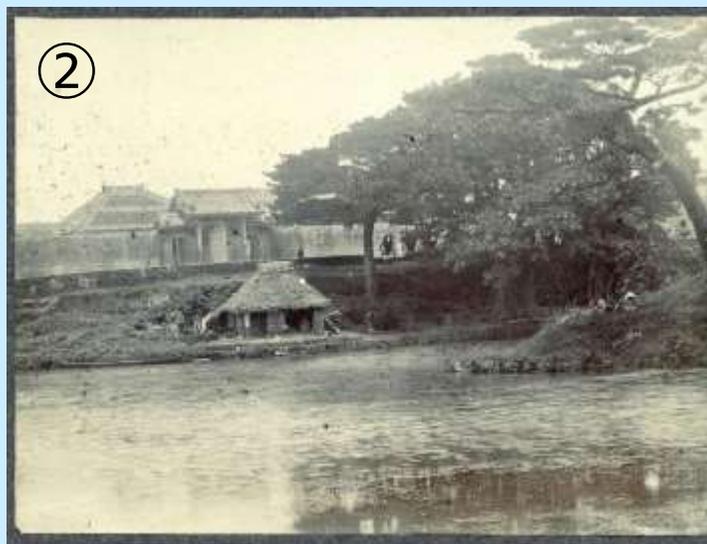
首里古地図でみる松崎馬場（赤丸の範囲）（18世紀初め）  
「首里古地図」沖縄県立図書館所蔵 CC BY 4.0（一部改変）  
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>



『中山傳信録』の「重陽宴図」（1719年冊封）

## 2. 松崎馬場の歴史的位置付けと根拠資料等について

### (2) 根拠資料②



- ①明治期の龍潭（世持橋）
- ②明治期の龍潭（中城御殿）
- ③龍淵橋と松崎馬場跡（師範学校）

①～③  
「明治期琉球写真帳」  
(琉球大学附属図書館所蔵)



「首里龍潭ヨリ旧首里城並ニ師範学校ヲ望ム」  
沖繩関係絵はがき  
／那覇市歴博

## 2.松崎馬場の歴史的な位置付けと根拠資料等について

### (3) 発掘調査成果①

- 松崎馬場跡は、過去数回にわたり発掘調査が行われている。各発掘調査の成果は以下のとおりである。

#### 【1989（平成元）年度 国学・孔子廟の発掘調査】（沖縄県教育委員会）

- 上層から師範学校関連の遺構が、その下から国学・孔子廟、松崎馬場関連の遺構を検出。このときに発見された石垣と石溝（約56m）はのちに県指定史跡となっている。松崎馬場跡では、道跡と思われる細かい石灰岩礫交じりの層を検出。

#### 【1991（平成3）年度 龍潭周辺の発掘調査】（沖縄県教育委員会）

- 最上層から師範学校関連の遺構、下層からコーラル敷きをベースにした道路が検出された。この道路は、埋文センターの2009年・2011年の調査報告書に記載された「松崎馬場の西側を通っていた宿道」に関係するものと思われる。

#### 【2009（平成21）年度調査】、【2011（平成23）年度調査】（沖縄県埋蔵文化財センター）

- これまでの調査により、16世紀以前には松崎馬場の西側縁辺部に宿道が通っていたことが想定される（礫敷きや舗装面、縁石を検出）。遺構の検出状況などから、宿道のラインを想定している。
- 各トレンチの層序より、松崎馬場跡は、19世紀初め、近代の造成による改変がうかがわれる。
  - 19世紀初め頃の層は、国学整備と関係すると思われる。近世の造成層は、厚く堆積しており、また現状の平場域一帯に及んでいることから、松崎馬場は国学の設置に伴って**19世紀初頭に大きく改変した**と思われる。
  - 近代の層は、明治19年の沖縄県師範学校整備と関係すると思われる。**当該層は松崎馬場跡の東側一帯にのみ確認された**ことから、近代においては松崎馬場跡の西側一帯はあまり利用されていないことが想定される。

#### 【2018（平成30）年度調査】（沖縄県埋蔵文化財センター）

- 国学・孔子廟の石牆に交差するように延びる石牆と、それに伴う階段や暗渠、溝を検出した。石牆は、近世～近代の層を掘り込んで作られていることから、国学・孔子廟の石牆と同時期のものと推測できる（高さ不明）。

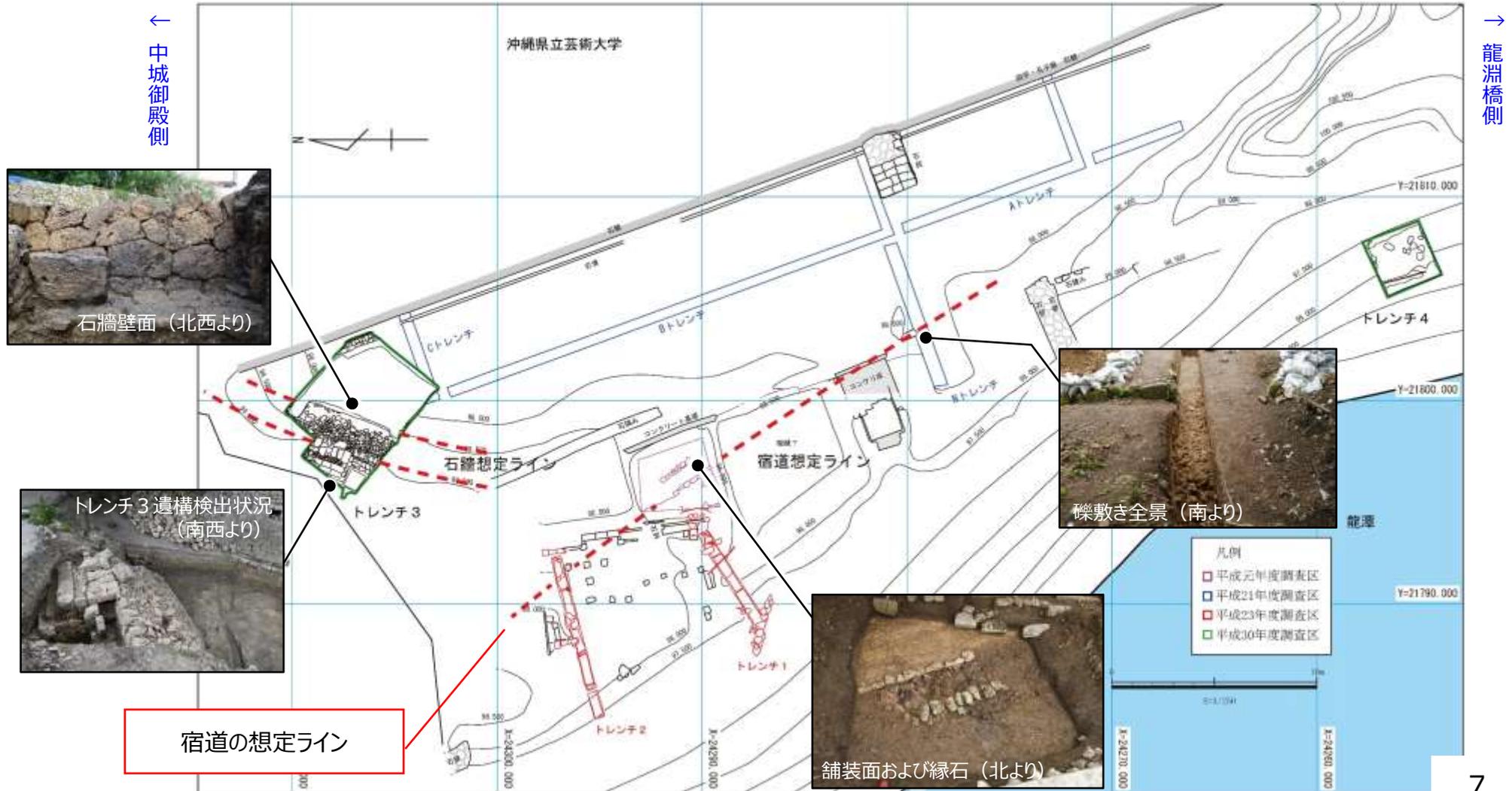
#### 【2022（令和4）年度調査】（沖縄県埋蔵文化財センター）

- 2022（令和4）年7～9月にかけて発掘調査を実施中である。松崎馬場の舗装面と思われる遺構が検出されている。

## 2. 松崎馬場の歴史的的位置付けと根拠資料等について

### (3) 発掘調査成果②

- これまでの調査では、松崎馬場を通過していた宿道のルートが想定されているが、道幅については不明である。



### 3. 今回検討事項① 【松崎馬場整備の考え方・整備方針】

#### (1) 平成22年度及び平成23年度における位置付け

##### ■松崎馬場整備の基本的な考え方（平成22年）

###### 文化財指定化への目標設定

- 中城御殿は国指定史跡、松崎馬場（龍潭一帯）は国指定名勝を目標とし、その評価に値する整備を今後検討する。

###### 時代設定

- 松崎馬場においては1801年に条路の整備が行われ、1886年に沖縄県師範学校の設置により宿道としての役割を終えているが、戦前まで龍潭一帯の歴史的景観を形成していたことから、公園整備にあたっては歴史風致景観の形成を視野に入れ、戦前の松崎馬場の姿を目標に設定する。

##### ■松崎馬場の整備方針（平成23年）

###### (1) 基本方針

- 松並木を中心とした歴史的風致景観の再生
- 市民の憩いの場としての「道広場」の形成
- 中城御殿、龍潭と西海道が一体となった復元整備

###### (2) 復元整備年代

- 古写真が残る明治後期から、先の大戦により消失するまでの松崎馬場を復元することを基本とする。

###### (3) 歴史的風致景観形成目標

- 古写真の琉球松は樹高が約20mあり、琉球松は成長に時間がかかることから、竣工時から約50年後を歴史的風致景観形成の目標とする。

### 3.今回検討事項①【松崎馬場整備の考え方・整備方針】

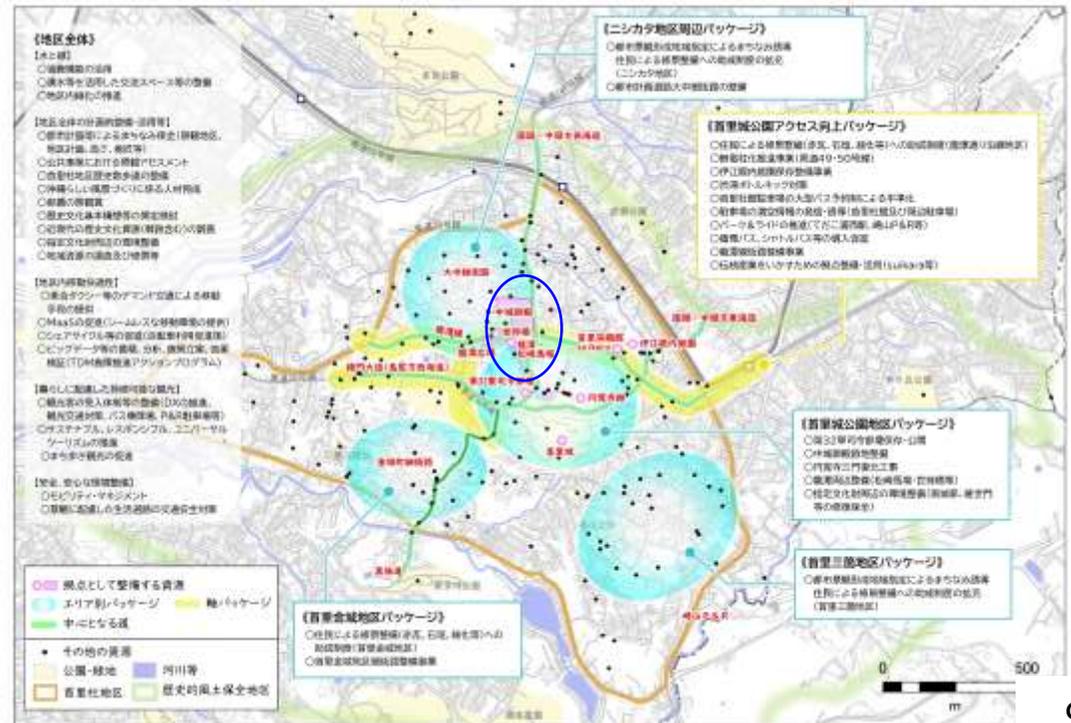
#### (2) 松崎馬場整備にあたっての前提条件など

##### ①首里城公園の園路としての役割

- 松崎馬場は、昭和63年3月の「首里城公園基本設計」において位置付けられているとおり、**今後整備される中城御殿と首里城公園中心部を結ぶ、公園内の主要園路としての機能**が期待されている。
- 首里城正殿は令和8年度に完成予定であり、中城御殿の整備も正殿工事にあわせて、令和8年度までに上之御殿エリア、御内原エリア・表御殿西側エリアの整備を進めるスケジュールとなっている。
- 中城御殿と首里城公園中心部を結ぶ園路となる**松崎馬場も、同じく令和8年度までの整備を予定している。**

##### ②歴史文化まちづくりの拠点としての役割

- 令和4年3月に策定された「首里杜地区整備基本計画」において、龍潭・松崎馬場は、**拠点として整備する資源**として位置付けられている。
- 龍潭一帯は「龍潭夜月」として「首里八景」にも詠まれる景勝地であり、また龍潭は親水空間としての性格も持つことから、景観や安全性に配慮した整備を検討することが重要となる。



「首里杜地区整備基本計画」(沖縄県、2022年4月)から  
※青丸は引用者による

### 3.今回検討事項①【松崎馬場整備の考え方・整備方針】

#### (3) 松崎馬場整備の考え方・整備方針

- 先述までの内容を踏まえ、松崎馬場の整備の考え方・整備方針を次のとおりとする。

#### 松崎馬場整備の考え方・整備方針（案）

※下線は過年度内容からの追加・修正案

##### 【基本的な考え方】

- 松崎馬場（龍潭一帯）は国指定名勝を目標とし、その評価に値する整備を行う。

##### 【整備方針】

- 松崎馬場は、宿道及び松並木を中心とした歴史的風致景観を再現した空間として整備する。
- 首里城城郭と中城御殿を結ぶ園路として、安全性やバリアフリー等に配慮し、使いやすさと歴史的景観の両立を図る。
- 整備にあたっては、園路機能の確保及び遺構の保護を前提とし、発掘調査等の成果を反映できるように努める。また、松崎馬場整備による周辺文化財への影響がない・最小になるように努める。
- 現況植生の調査や古写真分析等を踏まえて、景観に配慮しながら、往時の植生に近づける整備（松の植樹、往時にはない植物の撤去等）を検討する。

### 3. 今回検討事項② 【松崎馬場園路のルート設定の考え方】

#### (1) 課題（龍淵橋側入り口の石垣について）

- 松崎馬場の龍淵橋側の入り口側には、沖縄県立芸術大学敷地内の石垣（以後、芸大石垣と呼ぶ）が所在するが、崩落の危険があり、防止ネットで保護している状態である。松崎馬場を首里城公園の園路として活用する際には、安全性確保に向けた対策が必要である。



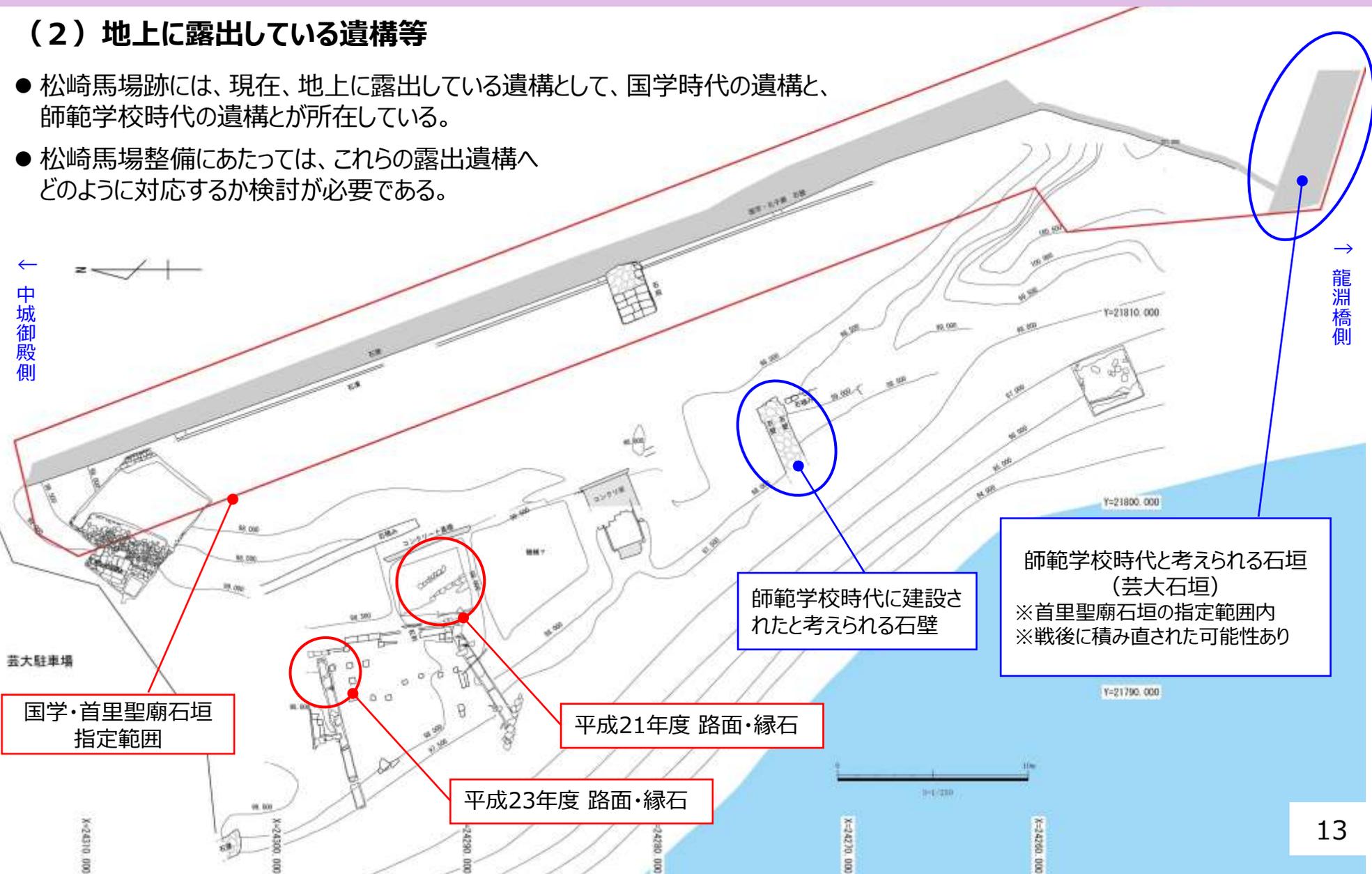
### 3.今回検討事項② 【松崎馬場園路のルート設定の考え方】



### 3.今回検討事項②【松崎馬場園路のルート設定の考え方】

#### (2) 地上に露出している遺構等

- 松崎馬場跡には、現在、地上に露出している遺構として、国学時代の遺構と、師範学校時代の遺構とが所在している。
- 松崎馬場整備にあたっては、これらの露出遺構へどのように対応するか検討が必要である。



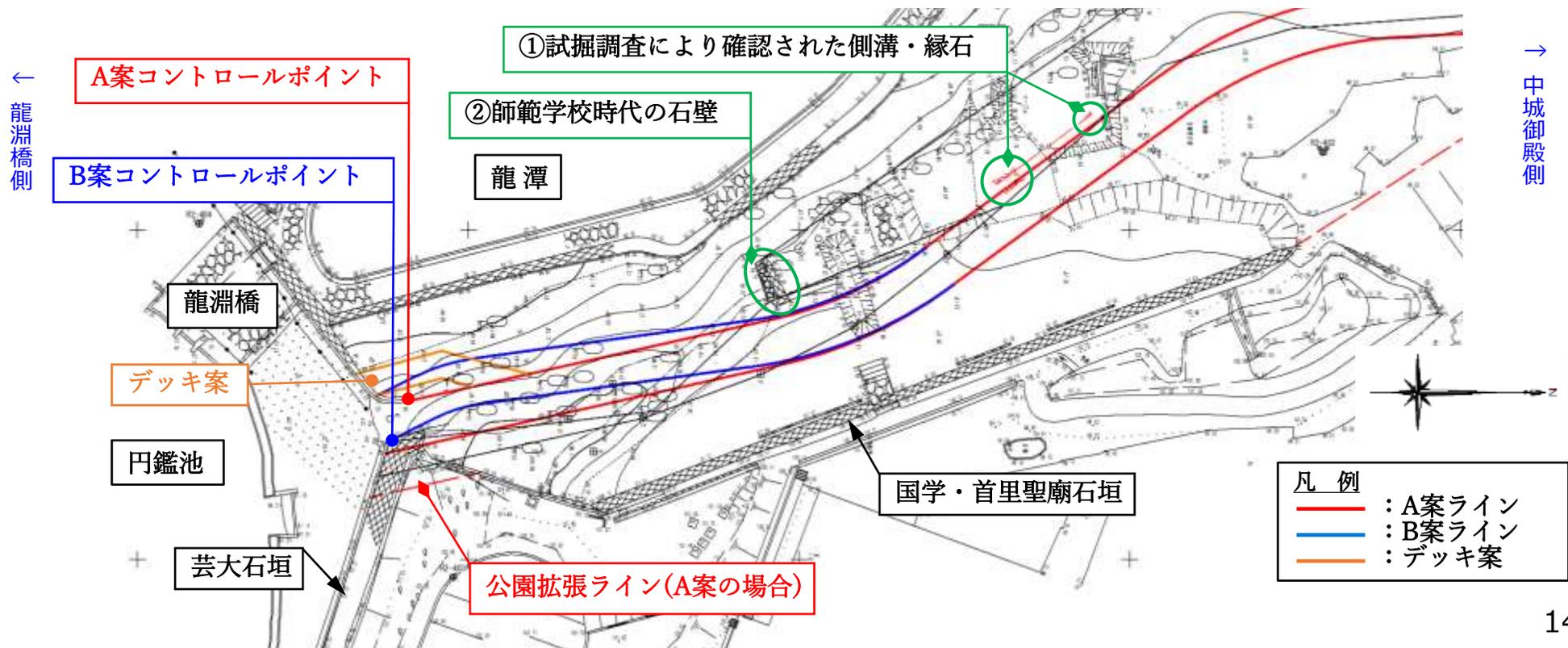
### 3.今回検討事項②【松崎馬場園路のルート設定の考え方】

#### (3) 松崎馬場のルート設定

松崎馬場の遺構は、試掘調査によって道路の舗装面と側溝・縁石の一部が確認されている。松崎馬場は19世紀の国学整備、近代の師範学校整備による改変の影響が見られる。

松崎馬場のルートは、現時点では不明なため下記の条件に基づいて設定する。

- ①松崎馬場の側溝・縁石を基準ラインとする。
- ②龍潭側の師範学校時代の石壁は保存する。
- ③松崎馬場の幅員は、発掘調査結果を踏まえ設定するが、現時点では、管理用車両の通れる程度の約3.5mにて検討した。



## 3.今回検討事項②【松崎馬場園路のルート設定の考え方】

### (3) 松崎馬場のルート設定

#### A案：龍淵橋側出入口の整備済石積(龍潭側)をコントロールポイントとして、芸大側へ3.5mの幅員を確保する案

- ・出入口付近の公園区域の拡張が必要となる。
- ・歴史の道として、発掘調査成果等に基づいた歴史的風致景観の再生が可能である。
- ・芸大石垣を改修することにより来園者の安全性が確保される。
- ・芸大石垣の一部撤去に伴い、明治期（師範学校時代）の石垣景観が損なわれる。

#### B案：既存芸大石垣ラインをコントロールポイントとして、龍潭側へ3.5mの幅員を確保する案

- ・芸大石垣の改修（崩落に対する安全対策）は芸大が行うことになり、すぐの改修が可能か不透明であり、改修に時間を要した場合、それに伴い松崎馬場の整備時期も遅れる。
- ・松崎馬場の幅員3.5mを確保するため、龍潭側へ新たな石積の整備が必要となる。
- ・明治期（師範学校時代）の石垣景観が保たれる。

※上記のいずれの案も芸大との調整が必要となるが、芸大石垣の改修が事業スケジュールに間に合わない場合は、デッキによる整備などの代替案により対応。